

緩和ケア

『ひととおりのことをやっても苦痛が緩和しないときに開く本』
森田達也 医学書院 2018
患者さんの言葉や症状から判断し、確定するための判断材料、対応策を紹介。根拠となる研究や文献も掲載されています。

『緩和ケア』購読中
『がん看護』28巻3号
【人生100年時代の看護師の養成-慢性疾患、ヘルスケア、生き方を見ずえる】終末期、緩和医療の目と心

看取り

『死を前にした人にあなたは何ができますか？』
小澤竹俊 医学書院 2017
緩和ケアに従事して20年以上の著者が、看取り対応について具体的な関わりを紹介。人生の最終段階におけるスピリチュアルケアのディグニティセラピーを漫画で学ぶことができます。

『ねじ子のぐっとくる脳と神経のみかた』
森皆ねじ子 医学書院 2013
お看取りの手順がイラストで説明されています。

コミュニケーション

『死にゆく患者と、どう話すか』
明智龍男 医学書院 2016
『白い巨塔』『コード・ブルー』などの映像作品での例をあげながらの講義。「本人からみた自宅で死ぬメリットとデメリット」「医療者はどこまで家族の代わりになるべきか」…様々な学生のレポートに著者が見解を述べています。

終末期看護

Library News番外編
No.17



東京慈恵会医科大学の研究チームによると2020年4月以降在宅での看取りが急増したそうです。コロナ禍、面会制限が要因とされています。自分らしくいるために終末期をどのようにどこで過ごすのかまたその人らしくいてもらうために何ができるのか…終末期看護を特集します。

エンゼルケア

普段お化粧をしていなかった男性にはどんなメイクをすればよいのでしょうか？エンゼルケアの意義と目的、メイクの方法などを解説。

『説明できるエンゼルケア』
小林光恵 医学書院 2011
『悲しいくらい人に聞けない看護技術』
中山有香里 メディカ出版 2019

『訪問看護と介護』28巻6号
訪問看護ステーションと葬儀社との連携で何が得られたか

自宅か 病院か

『家族が選んだ「平穏死」』長尾和宏 祥伝社 2013
40年前までは平穏死が普通だったが、現在は自分で選択しなければいけません。では、平穏死のために何をすればよいのでしょうか？本書では、著者が看取った様々な事例を通してコツが学べます。

『“生きる”をささえる看護』矢吹紀人 日本機関紙出版センター 2017
がん末期の患者と看護師が日帰りの海釣りへ行ったり、病室で三味線の演奏会をしたり…。最期までその人らしさであふれている1冊。

『ホームホスピス「神戸なごみの家」の7年』松本京子 木犀舎 2015
『本人の意思を尊重する意思決定支援』西川満則 南山堂 2016
ホスピス財団HP <https://www.hospat.org/index.html>

